

6.11.2 予測

6.11.2.1 工事の実施

1) 予測概要

事業実施区域前面海域には、イソハマグリやナキオカヤドカリの潮間帯生物、アオサンゴ、クシハダミドリイシ、クサビライシのサンゴ類、リュウキュウスガモなどの海草類が、重要な種として生息している。

工事の実施に伴う海域生物への影響要因と影響要素は表-6.11.2(1)に示すものが考えられることから、これらが及ぼす海域生物の生息状況の変化を表-6.11.2(2)に示すとおり予測した。

表-6.11.2(1) 影響要因と影響要素

項目	影響要因	影響要素
工事の実施	造成等の施工による一時的な影響(赤土等の流出)	SS濃度の変化 透明度の変化

表-6.11.2(2) 海域生物の予測の概要

項目	工事の実施
予測地点	事業実施区域前面海域を中心に、通路川河口付近のトゥールグチから白保にかけての海域
予測項目	生息・生育環境の変化による海域生物(重要な種)の生息状況の変化
予測対象 時期等	種の分布又は生息環境に係る環境影響が的確に把握できる時期
予測手法	造成等の施工の際の海域における水の濁りの予測結果から、対象生物群の生理・生態的特性を踏まえて予測

2) 予測手法

本予測の手法は、海域生物の生理・生態と生息環境の変化との関連から、生物の出現状況あるいは生息状況の変化を予測するものである。適用範囲は、海域生物全般であり、予測に当たっては、海域生物の生息環境の変化について「第6章 6.5水質」における水の濁り(海域)、赤土等の堆積及び水の汚れ(海域)の予測結果を考慮した。

本予測の手法は、動植物プランクトン、魚卵・稚仔、底生動物、魚類、潮間帯生物、サンゴ類、海藻草類といった代表的な海域生物及びウミガメ類など重要種の生息状況の変化を、生息環境を構成する水質の変化を踏まえて検討できることから、当該事業の予測の手法として妥当であると考えられる。